

Nonbiri Journal
わがやまに
恋した人々
Wakayama

東牟婁郡串本町
柴田香衣さん
SHIBATA KAI
兵庫県から移住



本州最南端に位置する串本町。昔はさつまいも栽培が活発に行われていたという。その中でも、実がオレンジ色で糖度が高い芋は「サイパン芋」と呼ばれ、珍重されていた。しかし時代の流れと共に栽培面積は減り、幻のさつまいもと呼ばれていたが、近年になりその美味しさを忘れないようにとJA紀南が中心となり復活。「なんたん蜜姫」というブランドで販売を始めた。

その「なんたん蜜姫」の美味しさを多くの人に知ってもらおうと、「なんたん屋」という加工場を立ち上げ起業したのが柴田香衣さんだ。「無農薬農業をしたいという両親と共に兵庫県から串本町に移住し、高校の3年間を和歌山で過ごしました。その後は大阪の専門学校に進学し、国内のあちこちでアルバイトを経験しましたが、東日本大震災以降、都

会での生活に疑問を感じ、将来的に食物、エネルギーの自給をしていきたい気持ちもあり、馴染みのあった串本に根を下ろそうと移住を決めました」。移住して5年、本格的な農業の経験もなく起業も初体験。両親や移住後の友人などの助けも借りながら生活環境を整えた。「同じことだけをやり続けられない性分。自給自足に近い田舎暮らしは未体験の連続。そんなライフスタイルが合っているのかもしれない」。

潮岬の畑で「なんたん蜜姫」を栽培し、大島の加工場でミルクジャムやタルトを作る。イベントなどにも積極的に参加し、自分で少しずつ販路を開拓。さらに夏の数ヶ月だけキャンプ場でアルバイトもする。「田舎には仕事がないよ！ってよくいわれますが、実際はその反対。やることはいっぱいあります」と柴田さんは楽しそうに語った。

復活した「なんたん蜜姫」を
タルトやジャムなどのスイーツに加工



友人や両親などに手伝ってもらいながら、飲作りや苗植え、収穫も基本的には自分で行う。この畑で1トンほどのなんたん蜜姫を収穫することができるという。保育所が休みの時は木ノ葉ちゃんもお手伝い。

受け入れ施策 Come on!

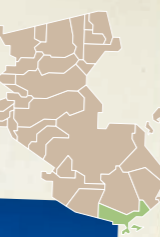
移住者の暮らしをバックアップするため、和歌山県ではさまざまな支援制度を整備している。柴田さんが利用したのは、移住後に新たに起業をする人を対象にした移住者起業補助金(最大100万円)。ほかにも空き家改修補助(最大80万円)などの支援がある。また、移住希望者を対象にした現地体験会も定期的に開いている。詳しくは→<https://www.wakayamagurashi.jp/how-to/support/>

自然な笑顔で
楽しそうに暮らす。



My Favorite Scene
串本町って
こんなところ!

串本町は潮岬が雄大な太平洋に突き出た、自然豊かな本州最南端の町。黒潮が陸地近くを流れ、温暖な気候のせいかな人情味も豊か。海も山も川も近く、海の幸も山の幸も新鮮で美味しい。さらには橋杭岩や大島の海金剛など観光名所もいっぱい。



橋杭岩は串本のランドマーク。雄大な自然が築いた絶景。串本のどかな時間は、散歩も小川での水遊びも子育てには最適。



田並駅近くにある「田並劇場」。利用されなくなった劇場跡を復活させたのは柴田さんの友人の林さんご夫妻。こちらも東京からの移住者。



天気の良い日は、潮岬の望楼の芝でリフレッシュ



なんたん屋の商品を販売する潮岬近くのパン屋 Biggiさん。他にも串本町のAcoopでも販売を開始する予定。

海風が心地いい、
ここは本州最南端の町。



焼き芋にすると糖度が40度にもなるとか、おうちより甘い「なんたん蜜姫」はJA紀南の登録商標。



人気の商品、①なんたん蜜姫タルトと②なんたん蜜姫のミルクジャム。③柴田さんが描くオリジナルキャラクターの脱力感もナチュラルで可愛い。④なんたん蜜姫ベーグルにはマッシュしたお芋がぎっしり。朝食にも◎!ミルクジャム以外は卵と乳製品不使用。



美味しい食材を
美味しく届けたい。

なんたん屋
住所/東牟婁郡串本町大島20-2
電話/090-9278-3686
<https://www.facebook.com/nantanya0328/>



気温が下がる冬は、適切に保存しておかないと「シビる」=腐る。こともある。コンテナに厚めの毛布などを被せて保存するが、基本はシビる前に加工してしまう方がいいので、冬は忙しいと語る柴田さん。



友人や両親に手伝ってもらいながら古民家を改修。お風呂は薪でも炊けるように改造したのだとか。一人娘の「木ノ葉ちゃん」だけでなく、番犬の「ウメちゃん」も人懐っこい。肩肘を張らず自然に暮らす柴田家には、笑顔が絶えない。